

学校・家庭・地域が一体となった健康教育の推進

～歯・口の健康づくりを通して～

埼玉県さいたま市立和土小学校

12学級 257名

1 研究の目標やねらい

歯と口の健康を保つことで、いつまでも自分の歯で食事を楽しみ、笑顔で周りの人とコミュニケーションをとって生活することは、豊かな人生を歩む上ではとても大切なことである。本校では歯・口の健康づくりを通して一人ひとりが生活習慣を見直し、さらには家庭、地域への啓発を図ることで、主体的に健康づくりができる児童を育成することができる考えた。そこで研究仮説を「家庭・地域の協力を得ながら、自分の歯・口の発育や健康状態を理解させ、その保持増進の方法を身に付けさせれば主体的に健康づくりができる児童を育成することができる。」とし、以下の手立てで研究に取り組むこととした。

- ① 健康への意識を高めるための児童の発達の段階に応じた指導を工夫する。
- ② 健康への意識を高めるための計画的・継続的な活動を工夫する。
- ③ 家庭や地域と連携し、よりよい生活習慣の形成を図る。

2 実施した主な活動

(1) 全体での活動



「すくすくタイム」

- ① よりよい生活習慣を身に付けさせるための「健康タイム」や「すくすくタイム」の実施

毎週木曜日の朝10分間を、歯・口の健康づくりに関する知識や技能を学ぶための時間として「すくすくタイム」を位置付けた。また、食後5分間を「健康タイム」とし、音楽に合わせて、クラス全員毎日歯みがきを行った。

- ② 学校歯科医の先生や歯科衛生士の皆さんによる専門的な指導

学校保健委員会や健康づくり集会、C・O・G・Oの個別指導等、専門的な立場の方から指導や講義を戴いた。児童はもちろん保護者にも参加を呼びかけ、学校と家庭が連携しながら学び合いを深めることができた。



「歯科巡回指導」



「健康づくり集会」

(2) 家庭・地域との連携



「親子歯によい料理教室・おやつ編」

よりよい生活習慣を身に付けさせるためには、家庭の協力が必要不可欠である。上記のように、学校の様々な活動に保護者や地域の方の参加を呼びかけ、共に学ぶ機会を多く設定した。また、親子が力を合わせて取り組む「親子歯・口の健康づくりポスターコンクール」は、力作が多く出品され、表彰式は盛り上がりを見せた。さらに、地域の菓子工房「えとわある」のパティシエの方や本校の給食を作ってくださっている給食センターの方を講師として招聘し

親子歯による料理教室を開催することができた。おかず編・おやつ編ともに、歯による料理やおやつを簡単においしく作ることができ、親子ともに大好評であった。

(3) 研究授業

① 特別活動



私の「ぴかぴか王子」はどこにいるかな？

つつこみみがきをすると、きれいになりますよ。



主体的に、継続して歯・口の健康づくりを実践する態度を育成する特別活動の授業研究。

② 道徳の時間

主体的に、継続して歯・口の健康づくりを実践する意欲を育成する道徳の時間の授業研究。



「わたし」にどんな言葉を言ってあげたいかな。

おそろいの物がなくても、友達だからだと思います。



③ 体育（保健領域）

RDテストでむし菌がいるかわかるよ。



歯肉炎にならないようにみがこう。



歯・口の健康づくりに必要な知識・技能を身に付けさせる体育（保健領域）の授業研究。

3 成果と課題 : ○ 成果 △ 課題

- 体育（保健領域）や特別活動（学級活動）の授業で養護教諭や歯科衛生士と連携し、より専門的な立場からの指導を実施したことで、児童に知識や技能が身に付いたり意欲的に学習に取り組んだりする姿勢が見られた。
- 2年次より、道徳の時間の研究にも取り組んだことで、歯・口の健康づくりに主体的に取り組もうとする心をはぐくむことができた。
- 「すくすくタイム」が系統的で、授業の内容と適切に関連し効果的な指導ができた。
- むし歯処置歯率が年々増加していることから、親子ともに、歯・口の健康づくりに対する取組が着実に向上しているといえる。
- △ 身に付けた知識・技能をさらに継続し、よりよい生活習慣を確立していくために、さらなる家庭との連携が必要である。
- △ 保護者や地域の方の授業への協力や参画について、今後も工夫していく必要がある。